

## 化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2001 - 26	官報公示 整理番号	2 - 198(化審法) 1 - 166(化学物質管理促進法)	CAS 番号	1643 - 20 - 5
名 称	N,N-ジメチルドデシルアミン N-オキシド 別名：ジメチルラウリルアミン オキシド		構 造 式		
分 子 式	C <sub>14</sub> H <sub>31</sub> NO		分 子 量	229.41	
市場で流通している商品(代表例) <sup>1)</sup>					
純 度 : 不明					
不純物 : 不明					
添加剤又は安定剤 : 不明					
物理・化学的性状データ					
外 観 : 白色固体 <sup>2)</sup>					
融 点 : 130 ~ 131 °C <sup>2)</sup>					
沸 点 : 文献なし					
引 火 点 : 文献なし					
発 火 点 : 文献なし					
爆発限界 : 文献なし					
比 重 : 文献なし					
蒸気密度 : 該当せず					
蒸 気 圧 : 該当せず					
分配係数 : log Pow ; 4.67 (計算値 <sup>3)</sup> )					
加水分解性 : 加水分解を受けやすい化学結合なし					
解離定数 : 文献なし					
スペクトル : 主要マススペクトルフラグメント ; 文献なし					
吸脱着性 : 文献なし					
粒度分布 : 文献なし					
溶 解 性 : N,N-ジメチルドデシルアミン N-オキシド / 水 ; 190g/L <sup>4)</sup>					
換算係数 : 該当せず					

## 総合評価

### 1) 危険有害性の要約

本物質はヒトでは経口投与により速やかに吸収される。

本物質は実験動物で眼、皮膚に強度の刺激性を示す。変異原性・遺伝毒性は、本物質単独では復帰突然変異試験で陰性であるが、亜硝酸でニトロソ化すると陽性を示す。発がん性については、本物質単独では実験動物に腫瘍を誘発しないが、亜硝酸塩との同時投与で肝細胞腫瘍の有意な増加を示す。なお、反復投与毒性、生殖・発生毒性に関する報告はない。

本物質は環境中に放出された場合、水圏では生分解されやすい。大気中ではOHラジカルとの反応が関与しており、半減期は1日以内と計算される。環境省のモニタリングデータはない。水圏環境生物に対する急性毒性は、甲殻類に対しては強い。

### 2) 指摘事項

- (1) 実験動物で眼、皮膚に強度の刺激性を示す。
- (2) 実験動物で亜硝酸塩との同時投与で肝細胞腫瘍の有意な増加がみられている。
- (3) 有害性を評価する上で、十分なデータがあるとはいえない。
- (4) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料 (2001).
- 2) Kis-net, 神奈川県環境科学センター(2000).
- 3) KowWin, Syracuse Research Corporation.
- 4) RhysProp, Syracuse Research Corporation.